

第2章 計画地の現状

第1節 自然環境

(1) 位置・立地・気象

本史跡が所在する北上市は、岩手県のほぼ中央、北上盆地の中ほどに位置している。北上川と和賀川の合流地点は黒沢尻と呼ばれ、中心市街地を形成している。周囲は、西に奥羽山脈、東に北上山地が連なり、豊かな自然に恵まれている。市域の北部から北東部は花巻市に、南東部は奥州市に、南部は金ヶ崎町に、西部は西和賀町に接している。

令和6（2024）年1月末時点での総面積は437.55 km²、人口は91,488人（41,408世帯）である。

本市の産業について、早くから工業団地造成や企業誘致に取り組んできた結果、工業では半導体や自動車の他、機械、パルプ、食品、医薬品等の幅広い業種の企業が立地している。製造品出荷額、付加価値額、従業員数は県内上位に位置し、東北地方有数の工業集積地となっている。一方、農業産出額も県内で上位に位置し、特産品として二子さといも、グリーンアスパラガス、りんご、大豆等が出荷されている。

本市は、東北新幹線や東北自動車道、秋田自動車道等の高速交通網が整備され、「北東北の十字路」としての交通の利便性によって、今後の発展が見込まれている。

本市は奥羽山脈と北上山地に挟まれているため、太平洋側の気候と日本海側の気候の両方の特徴をもつ。市域の東部・中央部は温暖な内陸性気候に区分されるが、西部は冷涼な山地気候に区分される。内陸性気候は気温の日較差や年較差が大きく降水量が少ないが、山地気候は冷涼で、風が強く、多雨多雪といった特徴がある。

本市の年平均気温は10.8°Cで、月別平均気温は8月が最も高く23.8°C、1月が最も低く-1.3°Cで気温差は25.1°Cと年較差が大きい。年平均風速は1.2m/s、月別最多風向は1月が北西、2~5月が西北西、6~9月が南、10~12月が西北西となる。年間降水量は1,318.8mm、年降雪量（平年値）は338cmである。

本史跡が立地する更木地区は、市域の東部に位置することから内陸性気候に属し、本市内においては比較的降雪量の少ない地域である。

近年、気候変動に伴う豪雨の発生により全国的に被害が増加している。本市でも土砂災害警戒情報や洪水警報が発令される事例が増えているが、堤防が整備されたこともあり甚大な被害の発生事例はない。堤防整備以前には、北上川東岸の沖積低地に立地する更木地区中心部は水害を受けることがしばしばあった。本史跡の指定地は浸水・土砂災害とともにハザードマップ（図13）の対象外となっている。本史跡の東側に隣接する特別養護老人ホーム「八天の里」は風水害の第1次避難所となっており、本史跡の立地する台地そのものが災害に強い立地と考えられている。

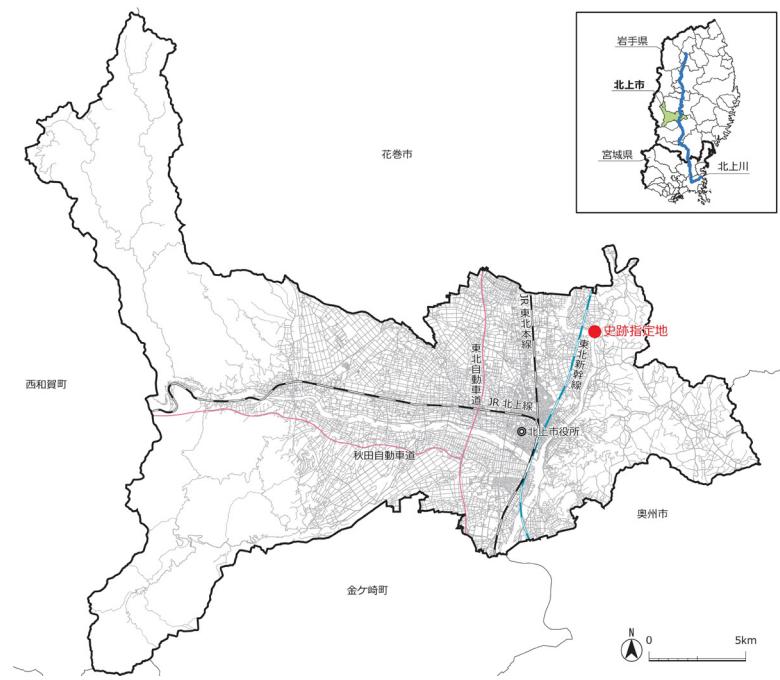


図3 史跡の位置

(2) 地形・地質

本市の地形は東部の北上川東岸丘陵、中央部の北上盆地、西部の奥羽山脈に3区分される。本史跡の位置する更木地区は、市域の北東部に位置するため、東側は北上川東岸丘陵、西側は北上盆地となる。

北上川東岸丘陵は標高300m台より低い緩やかな丘陵であり、更木地区では水乞山(287m)が代表的である。地質学的には稲瀬層(In/中期中新世、安山岩質の溶岩と凝灰角礫岩を主体とする)や上駒板層(Km/中期更新世、砂岩を主体とする)等が表層分布する。

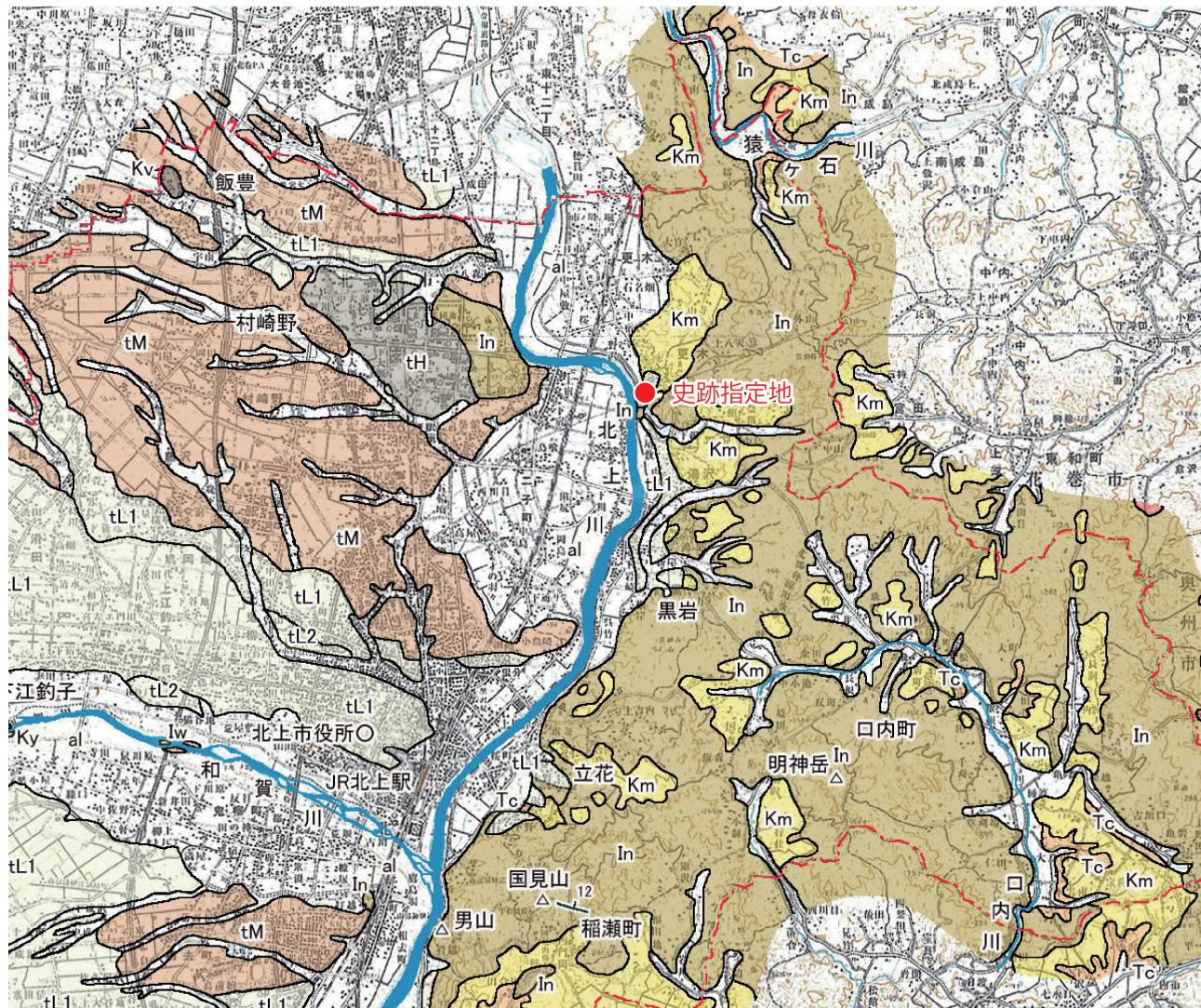


図4 北上市地質図（部分）（『新編北上市史 特別編 自然』p. 47より）

北上盆地は、その東縁付近を北上川が南流するため西岸が広く東岸は狭いが、更木地区の中心部では比較的広い沖積低地が発達している。河岸段丘（村崎野段丘：tM、金ヶ崎段丘：tL1/tL2）は北上川西岸に広く認められるが、東岸でも狭小かつ局地的ながら、確認されている。

本史跡はそのような段丘上（金ヶ崎段丘高位面/tL1）に立地している。西側が北上川の崖面であり、北側の「ヨシ谷地」、南側の「ヨナミ沢」によって開析され、舌状台地となっている。この台地は古くから「シドカケノ」（下欠野、志戸懸野）と呼ばれてきた。最高所が標高82m、表土下には部分的に風化火山灰土（ローム）が認められるが、多くは流出したとみられ、村崎野軽石（パミス）が厚く堆積する。以下の地層構成を標高で表現

すると、村崎野軽石層が約 79.5 m、その下の白色粘土層が約 76.5 m、その下の小砂利層が約 71.6 m、その下の大型礫を含む砂利層が約 66.7 m となり、それが溶結凝灰岩の岩盤（稻瀬層）へとつながり、それを侵食した川面は約 63.3 m である。すなわち台地の比高は約 19 m となる。白色粘土層上面は湧水線で、ヨシ谷地や北上川河畔に湧水地がある。また、白色粘土は良質でヨナミ沢が北上川に注ぐ場所にこれを利用するレンガ工場が存在した。砂礫層はもろく、たびたび地すべりを起こしたようであり、遺跡の東側は弧状に崩壊している。稻瀬層は北上川東岸の基盤を形成しているが、下欠野台地付近が西側に最も突出しており、これによって東流する北上川は南に流路を向いている。

このように、北上川に面した高台にあって水害のおそれではなく、眺望が良く、沢筋にも近い地形であることが選地の理由となり、縄文時代後期の特異な集落として本史跡が営まれたものと考えられる。

（3）植生・植物相

本市は、植生帯としては落葉広葉樹林帯に属する。市の総面積 437.55 km²のうち林野が占める面積は 234.30 km²で約 53%（2015 年値）、耕地面積は 91.10 km²で約 21%、そのうち水田面積が 84.10 km²で耕地の約 92% である（2020 年値）。

本史跡の位置する北上川東岸丘陵の尾根と斜面は、近代までは薪炭林や草刈場として利用されていたが、現在はほとんど伐採されることのない森林で占められており、その多くはコナラを中心とする雑木林と、スギやアカマツの植林地である。丘陵上部は水利が悪く耕作には向かないが、沢や谷地を利用して古くから水田耕作が行われてきた。水不足への対応として近世には溜池が多く造られたが、1960 年代に大規模な農業用水整備が行われ、平野部では水田の区画整理が進んだ。更木地区においても、下欠野台地上に更木東部揚水機（以下「揚水機」と表記）が整備され、台地上の区画整理も計画されたが、この計画が遺跡の本格的な発掘調査とそれに続く史跡指定の契機となった。

本計画策定に当たり、次の植物相調査を実施した。

①史跡八天遺跡夏季植物相調査

実施日：令和 4（2022）年 7 月 29 日 調査者：鈴木まほろ（策定委員会委員）

内 容：主に史跡斜面部分（「保存活用計画」B-1・B-2 地区）における樹木相の調査

植物相：斜面部分はスギの植林地を主体とする。下層には広葉樹の若木や低木が入る。西側の林縁にはオニグルミ・クリ・ケヤキが多く、南側の林縁にはウルシ・キリ・ケンポナシなど植栽起源のものが見られる。南側の斜面部を中心として日当たりの良い場所にはコナラを中心とする広葉樹が存在し、オオヤマザクラなどが見られる。台地上はホソムギを中心とする牧草及び畠地雑草である。

所 見：南斜面の広葉樹林は、縄文時代に相応しい雰囲気があり、このまま残すことを検討したい。スギの植林地も下層には広葉樹の若木や低木があるので、それらを残してスギを切れば、20 年程度で広葉樹林化する可能性がある。ただし、遺跡の北側及び西側の杉林は防風林の機能を担っていると考えられる。伐採する場合には、一度に皆伐するのではなく、後継樹の成長を待ちながら 2～3 回に分けて伐採を進めることが望ましい。この際、選択的伐採などが技術的・資金的に可能かどうかについては検討を要する。

②史跡八天遺跡秋季植物相調査

実施日：令和 4 年（2022）10 月 25 日 調査者：鈴木まほろ（策定委員会委員）

内 容：主に史跡台地上（「保存活用計画」A 地区）における草本植物相の調査

植物相：台地上は基本的にはホソムギを中心とする牧草及び畠地雑草である。斜面部分はササが多いが、シュンランなどが認められる。

所見：希少種として保護を必要とする植物は確認できない。揚水機フェンス周辺に「特定外来種」のアレチウリが繁茂しており、駆除が必要である。また台地上南側（送電用鉄塔の南側）に「生態系被害防止外来種」のセイタカアワダチソウが認められる。これについても対策が望ましい。

③史跡八天遺跡春季植物相調查

実施日：令和5（2023）年5月17日 調査者：鈴木まほろ（策定委員会委員）

内 容：史跡内における主に花の調査

植物相：西側斜面においてシュンラン、サイハイラン、ミヤマナルコユリが確認された。

所見：希少種として保護を必要とする植物は確認できない。「特定外来種」も新たに確認されたものはない。

表3 台地上平場の草本相

科名	和名	生育環境	在来／外来	備考
コバノイシカグマ科	ワラビ	草地	在	
ヒメシダ科	ヒメシダ	草地	在	
アカネ科	アカネ	草地	在	
アカネ科	ヤエムグラ	草地	在	
アブラナ科	ナズナ	草地	在	
イネ科	オオスズメノカタビラ	草地	在	
イネ科	ススキ	草地	在	
イネ科	スズメノカタビラ	草地	在	
イネ科	ナガハグサ	草地	外来種	
カタバミ科	エゾタチカタバミ	草地	在	
カヤツリグサ科	チャガヤツリ	草地	在	
キク科	オオジンバリ	草地	在	
キク科	セイタカアワダチソウ	草地	外来種	※2
キク科	ノアザミ	草地	在	
キク科	ユウガギク	草地	在	
キク科	ヨモギ	草地	在	
キンポウゲ科	ウマノアシガタ	草地	在	
キンポウゲ科	カラマツソウ	草地	在	
キンポウゲ科	キツネノボタン	草地	在	
セリ科	セリ	草地	在	
バラ科	ナワシロイチゴ	草地	在	
バラ科	ヘビイチゴ	草地	在	
ヒユ科	コアカザ	草地	在	
ヒルガオ科	ヒルガオ	草地	在	
フウロソウ科	ゲンノショウコ	草地	在	
ブドウ科	ノブドウ	草地	在	
マメ科	クズ	草地	在	
マメ科	コメツヅツメクサ	草地	外来種	
ヤマゴボウ科	アメリカヤマゴボウ	草地	外来種	
ワスレグサ科	ヤブカンゾウ	草地	在	
ウリ科	アレチウリ	草地	外来種	※1
コウヤワラビ科	コウヤワラビ	畠地	在	
トクサ科	スギナ	畠地	在	
マメ科	ダイズ	畠地	栽培起源	
イラクサ科	カラムシ	畠地	栽培起源	
サクラソウ科	コナスビ	畠地	在	
シソ科	ヒメオドリコソウ	畠地	外来種	
科名	和名	生育環境	在来／外来	備考
タデ科	イヌタデ	畠地	在	
タデ科	エゾノギシギシ	畠地	外来種	※2
ナデシコ科	コハコベ	畠地	在	
ナデシコ科	ミドリハコベ	畠地	在	
ナデシコ科	ミニナガサ	畠地	在	
ヒガンバンナ科	ニラ	畠地	在	
マメ科	シロツメクサ	畠地	外来種	
マメ科	ムラサキツメクサ	畠地	外来種	
イネ科	カモガヤ	牧草	外来種	※2
イネ科	クサヨシ	牧草	外来種	
イネ科	ハルガヤ	牧草	外来種	※2
イネ科	ホソムギ	牧草	外来種	※2
イネ科	アキノエノコログサ	路傍	在	
イネ科	キンエノコロ	路傍	在	
イネ科	ケチヂミザサ	路傍	在	
イネ科	メヒシバ	路傍	在	
ウコギ科	オオチドメ	路傍	在	
オオバコ科	オオイヌノフグリ	路傍	外来種	
オオバコ科	タチイヌノフグリ	路傍	外来種	
オオバコ科	ヘラオオバコ	路傍	外来種	
カタバミ科	カタバミ	路傍	在	
カヤツリグサ科	アオスグ	路傍	在	
キク科	セイヨウタンポポ	路傍	外来種	
キク科	ノゲシ	路傍	在	
キク科	ノブキ	路傍	在	
キク科	ハルジオン	路傍	外来種	
キク科	ヒメジョオン	路傍	外来種	
キク科	フキ	路傍	在	
キク科	フランスギク	路傍	外来種	※2
ケシ科	クサノオウ	路傍	在	
ケシ科	タケニグサ	路傍	在	
シソ科	キランソウ	路傍	在	
タデ科	イタドリ	路傍	在	
タデ科	オオイタドリ	路傍	在	
タデ科	スイバ	路傍	在	
ナデシコ科	オランダミニナガサ	路傍	外来種	
ヒユ科	イノコヅチ	路傍	在	

備考 ※1：特定外来種、※2：生態系被害防止外来種

表4 林縁・林床の草本相

科名	和名	生育環境	在来／外来	備考
ブドウ科	ヤブカラシ	林縁	在	
アカネ科	シラホシムグラ	林縁	外来種	
アサ科	カラハナソウ	林縁	在	
アブラナ科	コシロソウ	林縁	在	
イネ科	ネザサ	林縁	在	
イネ科	ミゾイチゴツナギ	林縁	在	
イネ科	ヤマミゾイチゴツナギ	林縁	在	
キク科	オニタビラコ	林縁	在	
キク科	キタカミアザミ	林縁	在	
キク科	ヤブタビラコ	林縁	在	
ケシ科	ムラサキケマン	林縁	在	
シソ科	イヌトウバナ	林縁	在	
シソ科	カキドオシ	林縁	在	
シソ科	ラショウモンカズラ	林縁	在	
スマレ科	オオタチツボスミレ	林縁	在	
セリ科	シャク	林縁	在	
セリ科	ヤブジラミ	林縁	在	
セリ科	ヤブニンジン	林縁	在	
ドクダミ科	ドクダミ	林縁	在	
バラ科	ヒメヘビイチゴ	林縁	在	
ユリ科	ヤマユリ	林縁	在	
キンポウゲ科	ボタンヅル	林縁	在	
サルトリイバラ科	サルトリイバラ	林縁	在	
サルトリイバラ科	タチシオデ	林縁	在	
サルトリイバラ科	ヤマカシュウ	林縁	在	
イノモトソウ科	ホウライシダ	林床	在	
オシダ科	オシダ	林床	在	
オシダ科	クマワラビ	林床	在	
オシダ科	ジュウモンジンダ	林床	在	
オシダ科	ホソバナライシダ	林床	在	
オシダ科	リョウメンシダ	林床	在	
コウヤワラビ科	イヌガンソク	林床	在	
シシガシラ科	シシガシラ	林床	在	
メシダ科	ヤマイヌワラビ	林床	在	
セリ科	セントウソウ	林床	在	
サトイモ科	ウラシマソウ	林床	在	
サトイモ科	コウライテンナンショウ	林床	在	
セリ科	オオハナウド	林床	在	
イグサ科	ヌカボシソウ	林床	在	
イヌサフラン科	チゴユリ	林床	在	
イヌサフラン科	ホウチャクソウ	林床	在	
カヤツリグサ科	ミヤマカンスグ	林床	在	
クサスギカズラ科	アマドコロ	林床	在	
クサスギカズラ科	オオバギボウシ	林床	在	
クサスギカズラ科	ミヤマナルコユリ	林床	在	
クサスギカズラ科	ヤブラン	林床	在	
クサスギカズラ科	ユキザサ	林床	在	
センリョウ科	フタリシズカ	林床	在	
ツゲ科	フッキソウ	林床	在	
ユキノシタ科	ヤマネコノメソウ	林床	在	
ラン科	サイハイラン	林床	在	
ラン科	シュンラン	林床	在	

表5 台地斜面の樹木相

科名	和名	高さ	備考	備考2	科名	和名	高さ	備考	備考2
ヒノキ科	スギ	高木	植栽	全体の8割を占める	カバノキ科	ツノハシノバミ	低木	在	
ヒノキ科	ヒノキ	高木	植栽	1本のみ	ガマズミ科	ガマズミ	低木	在	
アサ科	エゾエノキ	高木	在	北西側に多い	ガマズミ科	ニワトコ	低木	在	
ウコギ科	ハリギリ	高木	在	南東側1本のみ	グミ科	アキグミ	低木	在	
キリ科	キリ	高木	栽培起源	南西のみ数本	クワ科	ヒメコウゾ	低木	在	
クルミ科	オニグルミ	高木	在	北西側に多い	シソ科	クサギ	低木	在	
クロウメモドキ科	ケンボナシ	高木	在	南側に10本程度	シソ科	ムラサキシキブ	低木	在	
ニガキ科	ニガキ	高木	在		スイカズラ科	ウグイスカグラ	低木	在	
ニレ科	ケヤキ	高木	在	北西側に多い	ツツジ科	ヤマツツジ	低木	在	
バラ科	ウラジロノキ	高木	在	南東側1本のみ	ニシキギ科	コマユミ	低木	在	
バラ科	ウワミズザクラ	高木	在		ニシキギ科	ツリバナ	低木	在	
バラ科	オオヤマザクラ	高木	在		ハナイカダ科	ハナイカダ	低木	在	
ブナ科	クリ	高木	在		バラ科	コゴメウツギ	低木	在	
ブナ科	コナラ	高木	在	南西側に多い	バラ科	ノイバラ	低木	在	
ミズキ科	ミズキ	高木	在		バラ科	ヤマブキ	低木	在	
モクレン科	ホオノキ	高木	在		ミカン科	コクサギ	低木	在	
モチノキ科	アオハダ	高木	在	南東側1本のみ	ミカン科	サンショウ	低木	在	
ウコギ科	コシアブラ	亜高木	在		ミツバウツギ科	ミツバウツギ	低木	在	
ウコギ科	タラノキ	亜高木	在		モクセイ科	イボタノキ	低木	在	
ウルシ科	ウルシ	亜高木	栽培起源	南側に3本	モチノキ科	ハイイヌツゲ	低木	在	
エゴノキ科	エゴノキ	亜高木	在		アケビ科	アケビ	つる	在	
クワ科	マグワ	亜高木	栽培起源		ウコギ科	キヅタ	つる	在	
クワ科	ヤマグワ	亜高木	在		ウルシ科	ツタウルシ	つる	在	
アオキ科	ヒメアオキ	低木	在		クロウメモドキ科	クマヤナギ	つる	在	
イネ科	アズマネザサ	低木	在		スイカズラ科	スイカズラ	つる	在	
ウコギ科	ヤマウコギ	低木	在		ニシキギ科	ツルマサキ	つる	在	
					マメ科	フジ	つる	在	



図5 本史跡の植物相

(4) 動物相

本市は林野の占める面積が広いため、ツキノワグマやカモシカ等の大型動物を含めて、多様な哺乳類が生息している。明治時代の乱獲により 100 年間ほど姿を消していたニホンジカとイノシシも、近年は市内の各地で目撃されるようになった。

本史跡において網羅的な動物相の調査を実施した事例はないが、いくつかの確認事例がある。

昭和 50 (1975) 年 11 月 6 日～17 日には、第 3 次発掘調査に伴い、クロナガアリの巣を調査した。また、発掘調査中にトビイロシワアリも確認された。

平成 30 (2018) 年 5 月 24 日には市史編さん自然部会（部会員・執筆協力員併せて 3 人）により「夜の野鳥調査」が行われた。午後 6 時～10 時まで鳴き声等を手がかりに野鳥種を確認するもので、フクロウ、ホトトギス、ホオジロ、キビタキ、ヒヨドリ、ツバメ、モズ、ハシボソガラス、セグロセキレイ、ハクセキレイ、スズメ、トビ、ミサゴ、ウグイスが確認された。また、翌朝にはニホンジカとタヌキが目撃された。

令和 2 (2020) 年 7 月 20 日～12 月 18 日の第 7 次発掘調査及び令和 3 (2021) 年 4 月 16 日～11 月 30 日の第 8 次発掘調査においては、発掘調査員による目視・鳴き声・痕跡確認等により次の動物を確認した。

哺乳類：ニホンジカ、ニホンカモシカ、タヌキ、ハタネズミ、ニホンリス、ツキノワグマ（本史跡近辺で目撃され、担当部局より警戒情報がもたらされた。）

鳥類：アオゲラ、ウグイス、キジ、キジバト、シジュウカラ、スズメ、トビ、ハシブトガラス、ノスリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ホトトギス、ハクセキレイ、ツバメ、エナガ、カケス、モズ、カルガモ、カワラヒワ、フクロウ

爬虫類：ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ

両生類：ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル

節足動物：モンキチョウ、モンシロチョウ、アゲハチョウ、カラスアゲハ、クマバチ、オニヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、エンマコオロギ、ベニシジミ、ジャノメチョウ、ミンミンゼミ、アカウシアブ、アブラゼミ、シオヤアブ、ジャコウアゲハ、ハグロトンボ、ヒグラシ、ミミズ、ダンゴムシ、ワラジムシ、ツバメシジミ、ヒメウラナミジャノメ、アキアカネ、ノシメトンボ、オオヒラタシデムシ、スズムシ、コクワガタ、アカタテハ、カノコガ、シロテンハナムグリ、ヤスデ、オナガサナエ、サカハチチョウ、シャクトリムシ、マイマイガ、スズメバチ、カマキリ、トノサマバッタ、キリギリス、クロナガアリ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、アメンボ、ゲジ



写真 1- 1 ニホンカモシカ



写真 1- 2 ニホンカナヘビ

(5) 景観

本史跡は北上川左岸の段丘上に立地しており、西側に眺望が開ける地形である。眼下に北上川を見下ろし、沖積低地を一望できる。また、好天時には遠く奥羽山脈を望むことができる。しかし現状では、台地斜面のスギの植林によって、現地からの眺望は阻害されている。本史跡からの魅力的な眺望を十分に活用した整備を考えることが課題である。



写真2-1 本史跡現地における眺望（東から）



写真2-2 本史跡上空からの眺望（東から）